

和装にも
洋装にも
合う!

〜コレクション展示 考古・歴史〜
「束髪」ヘアアレンジ集

令和3年4月3日(土)～5月23日(日)

ワンポイント解説《束髪の結び方図解》

出品資料	資料名称	員数	作者	制作年
No.1	洋式婦人束髪法	1冊	村野徳三郎	明治18年(1885)
No.2	婦人束髪会 結用雛形	2枚続	三代歌川国貞	明治18年(1885)
No.3	あげまき(模型)	1点	—	—
No.4	大日本婦人束髪図解	3枚続	安達吟光	明治18年(1885)
No.5	鬘附束髪図会	2枚続	楊洲周延	明治20年(1887)
No.6	イギリスむすび下げ(模型)	1点	—	—
No.7	マーガレット(模型)	1点	—	—

※全て当館蔵

※展示資料からの引用文の表記については、原則として通行の字体に改め、一部の字にはルビを補いました。

＊あげまきの結び方＊

(上げ巻)(結方説明)

先づ左の手にて髪の根を揃へ右の手にて其髪を三四回右の方をねぢり
然後適宜にづの如き曲毛を頭上に作り毛先を根元へ押込みて
所々を「ヘアピン」(留針の名也)にて押へ留て散乱せぬ様にする也

(下げ巻)(説明)

此束髪方ハ唯髪を後頭に下て結ぶ迄にて別段上げ巻の結び方に異らざれば之を略す

(「婦人束髪会 結用雛形」)

解説

- ①まず、左の手で髪の根元を束ねます。
 - ②右の手でその髪を右向きにねじります。
 - ③ねじった髪で図のようなお団子を頭の上に作り、毛先を根元に入れ込み、ところどころをヘアピンでとめて散らばらないようにします。
- ※お団子を作る場所を下の方にとするとさげまきになります。



西洋上げまき
「婦人束髪会 結用雛形」(部分)



同(西洋上げまき)
「婦人束髪会 結用雛形」(部分)



同さげまき(西洋下げまき)
「婦人束髪会 結用雛形」(部分)

イギリスむすびの結い方

(イギリス結下ゲ)

中剃の辺りにて束ね夫方三つ打に編下るなり是を巻つけしをいギリスむすびと云最も丈夫向也

(英吉利結)

イギリス下げむすびを根元を辛にして図のごとく巻付針にて留る

(「鬘附束髪図会」)

解説

- ①頭の中央部で束ねてそこから下に三つ編みを編みます。(このままにするとイギリスむすび下げ)
- ②三つ編みを巻き付けてお団子を作ります。(イギリスむすび)



イギリス結下ゲ
「鬘附束髪図会」(部分)



英吉利結
「鬘附束髪図会」(部分)



いギリス結
「婦人束髪会 結用雛形」(部分)

マーガレットの結い方

(まがれひと)(結方説明)

先づ伊吉利結びの如く髪を三つ打ニ編み 其髪の先を「リボン」にて結び
之を根元へ返し其リボン」にて赤之を根元へ結び付くる也

(「婦人束髪会 結用雛形」)

イギリスむすびと同じく三つうちにして

毛さきをリボン(細き小ぎれなり)にてむすひかへして根元へゆひ付る也 (「鬘附束髪図会」)

解説

- ①まず、イギリス結びのように、髪を三つ編みにします。
- ②三つ編みの先をリボンで結んだ後、それを根元側へ折り返して、三つ編みの先をリボンで根元へ結びつけます。



マガレイト
「鬘附束髪図会」(部分)



うしろむき
「大日本婦人束髪図解」(部分)



まがれ系・よこむき
「大日本婦人束髪図解」(部分)



まがれいと
「婦人束髪会 結用雛形」(部分)